

銅在庫は増加一服、LME 銅は反発も上値は重い NY 銅はチリの湾ロストによる供給懸念で上昇

9日入電のLME銅相場は前日比48ドル高の7,435ドルと反発。銅在庫増加が一服、反発するも上値は重い。銅在庫は微減となるも、58万トン手前の高水準。

NY銅相場は2.80セント高の336.80セントと反発。チリの湾ロストによる供給懸念で上昇して引けた。

NYカーブは7,485.75～7,490ドルとなり、LME先物比22.88ドル高となった。

錫は僚品高から値を上げる

LME錫相場は300ドル高の2万2,915ドルと反発。僚品高から値を上げて引けた。

鉛は僚品高で後場小幅高

LME鉛相場は5ドル高の2,029ドルと反発。僚品高で後場上昇、小幅高で引けた。

亜鉛は僚品高を受け反発

LME亜鉛相場は10ドル高の1,858ドルと反発。僚品高を受け反発して引けた。

アルミは上値重く、後場小幅高

LMEアルミ相場は6.5ドル高の1,856.5ドルと反発。上値重く、後場小幅高となった。在庫は微増となった。LMEアルミ合金は1ドル安の1,776.5ドル、北米特殊アルミ合金は16.5ドル高の1,774.5ドルとなった。

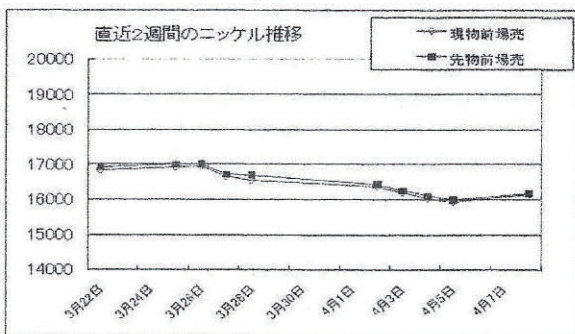
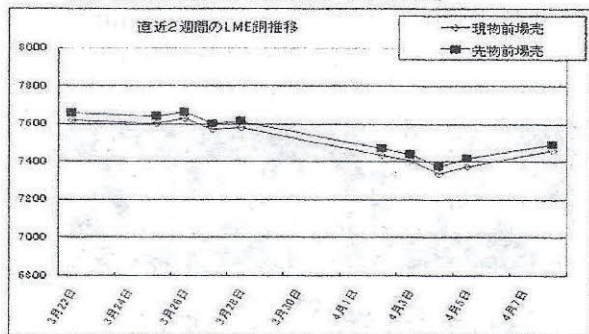
ニッケルは僚品高で1万6千回復

LMEニッケル相場は115ドル高の1万6,090ドルと反発。僚品高で1万6千ドルを回復。

KLTM錫は51.5Mセント反発

採算値は3万7,000円高

KLTM錫は前日相場と比べ51.5Mセント高の70.097Mドルと反発。USDドルは180ドル高の2万2,960ドルとなり、出来高は48トン。MDL/USDレート=3.0530とTTSレート100.36円で換算した採算値は3万7,000円高の230万9,000円、諸掛込みの採算値も3万7,000円高の246万9,000円となった。



橋本健一郎氏の3月アルミスクラップレポート及び4月見通し

■概況：前半はECBドラギ総裁の「ユーロ圏は2013年後半には景気回復に向かう」とのコメントやNYダウの最高値更新、さらに中国国家備蓄局がアルミ30万t、亜鉛3万tを買い上げるなどのプラス材料もあったが、1月のユーロ鋳工業生産指数の悪化、全人代をひかえる中、当局が不動産価格抑制策を発表したこと、中国鋳工業生産が+9.9%、小売売上高が+12.3%をともに予測を下回ったことを嫌気し2113ドル(現物後場買い)と前月最終価格から約38ドル下落しての前半締めとなった。

後半は注目のキプロス問題がEUとの金融支援合意出来た事。中国HSBC・PMI指数(中小企

業中心)が51.7と予測の50.7を上回ったことなどの好材料もあったが、キプロス金融支援条件の預金課税が今後の欧州懸念の支援モデルになるのでは?との不安感や、ユーロ圏総合景気指数の悪化、独製造業PMI指数の悪化、イタリア政局不安の台頭から4月3日現在、LME(現物後場)1846ドルと85ドル下落してのスタートとなった。

■前月の経済指標：日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-15.1%の86万8194台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-15.6%の42万69台。国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比+3%の6万8969戸であった。ま

た貿易指標を見ると、財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前月比-66.4%の50t、2次合金が-14.5%の751t、スクラップが+87.6%の17565t。輸入は新地金が前年比-16.5%の10万3596t、2次合金が-38.3%の5万5269t、スクラップが-20.7%の723t、合金スクラップは-3.9%の2964t。また前月の国内指標を見ると、日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-7.2%の15万3711t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前年比-0.8%の6万5618tであった。

■見通し:3月は欧州の小国キプロスショック(債務危機)に揺れた1カ月間となった。EUとの支援条件、預金課税の中身について議会で否決。その後ロシアに救済を求めるなど一進一退するも結局株主の一部負担や高額預金者への課税を条件にEUと合意。ただ株主負担や高額預金者負担が今後の銀行救済モデルのデフォルトになるのではとの危惧が台頭。今後の動向に注目。

前月の各指標を見ると、自動車生産は前年比-15.1%2桁悪化の6カ月連続マイナス、販売の方もほぼ前月から減少幅悪化の-15.6%とエコカー減税終了の反動もあるがまだまだ減少基調。住宅関連は先月に続き6カ月連続増加 前年比+3%(前月比(季節調整済み)+9.4%)の6万8969戸。復興需要や消費税アップ前の駆け込み需要など今後の動向に注目。自動車関連のアルミ2次合金生産は引き続き前年比-0.8%と6カ月連続の減少、下げ幅は縮小した。前月に続き大幅円安に伴う割高感からの国内塊回帰から需要増で減少幅縮小との見解。その他、圧延・押出品生産数は前年比-7.2%と再び悪化。圧延に関しては自動車向けが-8% 押出に関しては自動車向けが-12%、建設が-20.7%と悪化。

輸出は新地金が前年比-66.4%の50t、2次合金が-14.5%の751t、スクラップが+87.6%の1万7565t。前月に続き大幅円安や輸出が好調な

韓国への輸出増との見解。輸入は新地金が前年比-16.5%の10万3596t、2次合金は-38.3%の5万5269t、スクラップは-20.7%の723t、合金スクラップは-3.9%の2964t。新地金は円安からの割高感のため輸入塊は減少、スクラップは輸入塊の割高感から一部、安いスクラップへ原料シフトしたものの依然として韓国への輸出が好調なことから輸出増加との見解。

原料需給には供給不足。いよいよ新年度入りし、アベノミクスによる大型受注が入る可能性や先月に続き新設住宅着工数が前年比+3%と6カ月連続増加、回復の兆しもある。また最大需要家の自動車メーカーも、円安からの国内塊への回帰が起っており今後は増税前の駆け込み需要に対応するため、国内2次合金需要が増加するためスクラップ需要も増加するのでは。

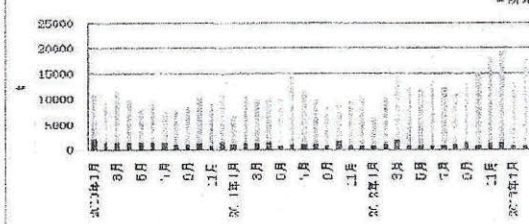
LME価格に関して新規材料としてキプロス債務問題が台頭 規模的には欧州総GDPの0.2%と影響は少ないがEUとの支援合意内容の預金課税について今後の救済モデルになるのではとの先行き不安もある。また過剰流動性資金が現在は株、国債、通貨に流れておりコモディティ(商品)への流入がみられないことから3月最高値付近の上値は2000ドル。下値はNYダウの最高値更新や日経の高値更、に湧いた先月であったが結局アルミを含む金属は今一歩だったことによる狼狽売りから一段安の1800ドル、スクラップ価格についてはLME価格の下落を受けて多少調整が進み2月後半価格から、据え置きもしくは-5円程度の値上げがあるとの予測。

	12月	1月	2月
生産合計	70万2258台	75万4054台	86万8194台
前年比	-17.2%	-9.9%	-15.1%
	1月	2月	3月
販売台数	22万9333台	29万2453台	42万69台
前年比	-12.9%	-12.2%	-15.6%
	12月	1月	2月
新設住宅着工数	7万5944戸	6万9289戸	6万8969戸
前年比	+10%	+5%	+3%
輸入	12月	1月	2月
新地金	11万5743t	13万1664t	10万3596t
前年比	-21%	-9.2%	-16.5%
2次合金	8万0924t	9万1258t	5万5269t
前年比	-19.6%	-16%	-38.3%
スクラップ	676t	1151t	723t
前年比	-11.9%	+86.5%	-20.7%
合金スクラップ	2302t	3296t	2964t
前年比	-62.5%	-43.4%	-3.9%

輸出	12月	1月	2月
新地金	142t	124t	50t
前年比	+12.7%	+158%	-66.4%
2次合金	1193t	743t	751t
前年比	+61.9%	+2.1%	-14.5%
スクラップ	18133t	12770t	17565t
前年比	+87.3%	+123.4%	+87.6%

アルミ輸出推移

○ スクラップ
■ 2次合金
■ 新地金



アルミ輸入推移

■ 合金スクラップ
■ スクラップ
■ 2次合金
■ 新地金

